

保	育	の	父	・	佐	竹	音	次	郎	に	学	ぶ	会	★	通	信
	音	次	郎	会	◆	I	N	F	O	◆	v	o	l	.	2	9

2024.10.24 Thu

ホームページ：<https://otojiro.link>

eメール：info@otojiro.link

秋が深まるにつれ作物の実りの便りが届きます。預かった子供を我が子と同じように育てようとした音次郎は、保育のかたわら食料の自給自足をはかって農業にも取り組みました。保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会（通称：音次郎会）から会員の皆さまに会報（メールマガジン）をお届けします。

◆◇ INDEX ◇◇

- 【1】「音次郎むかしあそび」の報告
- 【2】奉加帳ミックス版（第2版）の公開
- 【3】奉加帳読み解きのお願い
- 【4】興味深い登場人物

【1】「音次郎むかしあそび」の報告

8月10日（土）9:00～10:30、竹島集会所にて「音次郎むかしあそび」を行いました。音次郎総合学習で生徒たちが製作した作品を使って親子で楽しく遊びながら音次郎の歩みに触れました。

製作された遊び道具は「すごろく」、「紙芝居」、「かるた」です。小学生低学年から楽しめる内容です。

「すごろく」は竹島小学校2021年の5年生クラスで作りました。「音次郎一生すごろく」と「音次郎豆知識すごろく」があります。どちらも、音次郎の伝記を読んだ小学生が音次郎の紆余曲折の人生をすごろくにも反映していて、「ふりだしに戻る」や「1回休み、2回休み」などが随所、随所に折り込まれていて、サイコロ運が悪かったある人は、1人最後まで、ずっと上がれずに終わりました。

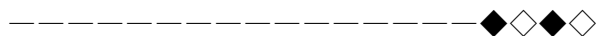
2つのすごろくに興じた後は、冷たい物を口にしながら小休止。紙芝居「保育の父・佐竹音次郎ものがたり」を鑑賞しました。これは中村高校漫画研究部が作りました。参加した会員で読み聞かせボランティアをされている方があり、その方に朗読をお願いしました。また四万十市図書館では紙芝居用の舞台を貸し出して下さっていますので、それを使っての本格的な紙芝居上演となりました。

おわりにかかるた合戦をしました。この「音次郎50音かるた」も竹島小5年生が作った物です。すべてが5・7・5の川柳形式になっていて、読み札を読み上げた時の響きも良いです。「ま」の札はこのような歌になっています。

学べるな 佐竹音次郎の やさしさを

まさに今回のプログラムを言い表しています。ともすれば歴史学習は難しく固いのですが、今回参加した小学1年生もよろこんで、遊びながら、地元の先人・保育の父に触れ、楽しく学べる良い機会になりました。

これからも幅広く地域の交流行事などでも実施できればと思います。余興などでこのプログラムの実施をご検討くださる団体がございましたら、事務局までご一報ください。



【2】奉加帳ミックス版（第2版）の公開

保育の父・佐竹音次郎の「鎌倉保育園 慈善書画会賛助 芳名簿」（奉加帳）は2021年3月に音次郎会ホームページで公開していました。また2023年10月には、読み解けた人名を反映して、奉加帳実写映像と読み取り結果を活字にしたものを左右見開きで対比しながら見える様に工夫した新しい一覧表（ミックス版初版）をつくりました。その後、読み解き出来ていない人名の更なる解読を呼びかけていたところ、再び、板垣退助研究者である公文豪氏のご協力によりミックス版第2版を作成しました。

今回は公文氏解読箇所と事務局解読部分を合わせて131名について新規解読または訂正を加えました。

・奉加帳統計データ

第1～3回書画会奉加帳収録人数 459人

第4回書画会奉加帳収録人数 192人 合計651人

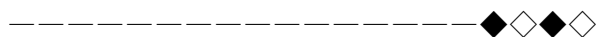
収録実人数（繰り返し支援した人名を除いた人数） 491人

未解読人名（1文字も解読できていない人） 32人（うち2組が同じ署名と認められる）

一部解読人名（読めない文字がある人） 41人（ " 1組 " ）

解読結果に疑いがある人名 15人

ただいま、なるべく実物に近い複製版（レプリカ）を制作中です。最後まで課題となっていた装幀（製本にする為の装飾が施された表紙や箱）については、音次郎が曾称荒助に指示されて奉加帳を買いに行った榛原^{はいばら}日本橋本店が現存している事が判り、その協力を得て進めているところです。完成が待ち遠しくなりました。



【3】奉加帳読み解きのお願い

ミックス版第2版公開のところでも触れましたが、奉加帳にはまだ88人について疑念があります。解読についてぜひ、ご協力ください。

音次郎会ホームページの「研究材料」のページから「奉加帳電子版」と「奉加帳 Mix 版」と「一覧表」（Excel 形式／PDF 形式）はダウンロード可能です（この会報が届く頃は、次回会報のお届けまでトップページからもダウンロード可能です）。

また、協力頂ける方で身近にインターネット環境が無い方や、冊子体を希望される方は音

次郎会事務局からお届けする事も可能です。お申し出ください。

-----◆◆◆◆

【4】興味深い登場人物（奉加帳概要 2024年10月現在）

この記事は、2023.10.11 Wed 発行 会報 vol.25 【2】奉加帳概要の続編です。ミックス版を更新するたびに解読できた人名データを統計化しておりますが、その途上で興味深い内容をお伝えするものです。ぜひ、バックナンバーを参照しつつお読みください。

前回、寄付者の出身地の統計について「47都道府県とはならず、奈良県、和歌山県、広島県、沖縄県の人には居ませんでした」とお伝えしておりましたが、今回、手直した131名のデータの中で和歌山県出身の人が居ました。

①唯一の和歌山出身者（現時点において）

その人は第1～3回書画会奉加帳の456番目に登場する人物で、森部 颯（もりべ・えい）という人です。彼は洋画家・森部勉の父で、台中にて軍医少佐でした。この人についてはネット上ではこれ以上の情報を得る事は出来ません。音次郎と同職種の人なので、もしかしたら音次郎が学んだ医学済生学舎の同窓生かもしれません。参考に、名簿の中には済生学舎出身者の名前もあります。

音次郎は当初、我が子同様に育てていた子供達の養育費を自弁する事に拘りました。孤児院のように寄付をもらいながら「如何にも施設運営」という形ではなく、あくまでも一家の大黒柱が働いて自分の手で子供を養うという普通の家庭のような養育をしたいという思いが音次郎にはあったからでしょう。聖愛一路にはその様子が記されていますが、済生学舎の親友・田辺猛雄氏からのせっかくの申し出を音次郎は断りました。

ところが、曾祢荒助に叱咤激励されて他人の支援を得る事について目が開かれた音次郎は、やがて中国 大連で開業していた田辺の元を訪れ、書画会の協力を求めました。

その荒助が作らせた奉加帳を解読しているのですが、単なる人名が羅列された名簿の中にも、見えない人と人の絆を感じます。済生学舎で机を並べて「音さん」、「颯さん」と呼び合っていたのかもしれないと思えば、楽しくなります。

②片岡直輝・直温兄弟と土居通夫

協力者出身地は多い順に、東京、高知、愛知、京都、鹿児島、熊本、大阪（同人数で山口）と続きます。前回から解読が進み、和歌山出身者が見つかりましたが全般的に増えていますので人数順には変化ありません。

前回、奉加帳に最多登場（5回）する大阪出身の女流画家・野口小蘋の事をお伝えしました。大阪は当時、下田や高知から本土へ入り、上京する船の中継地であった事から音次郎は何度も立ち寄る事があったのでしょう。支援者に大阪の人物が多い理由だと思えます。

今回、新たに読み解けた人物で、大阪で活躍していた興味深い3人を紹介します。

片岡兄弟は現在の高知県津野町出身です。津野町役場の裏に日本庭園の美しい生家があり、「津野町から日本の政財界に名を残した片岡兄弟」として顕彰されています。大阪ガスの社長、日本生命の社長、大蔵大臣も務めました。人名を調べるために音次郎会で活用している

